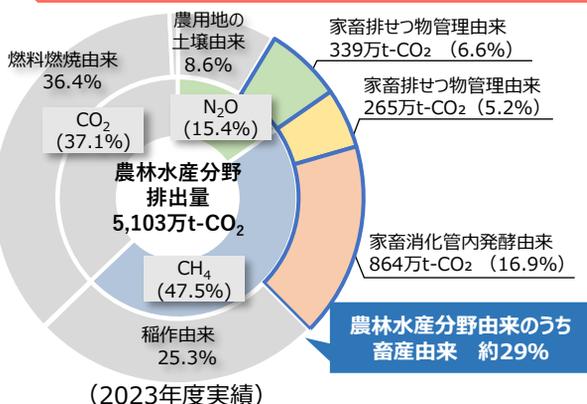


畜産でも温室効果ガス（GHG）を削減しましょう

畜産で取り組む理由

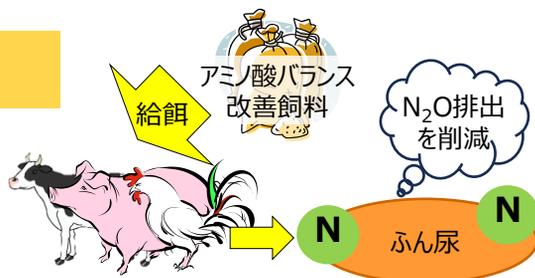


地球温暖化への対応が世界的な課題となり、国民の関心も高まっています。農林水産分野における温室効果ガス（GHG）の総排出量の約3割を占める畜産分野においても排出削減を進めていく必要があります。

畜産での主な取組

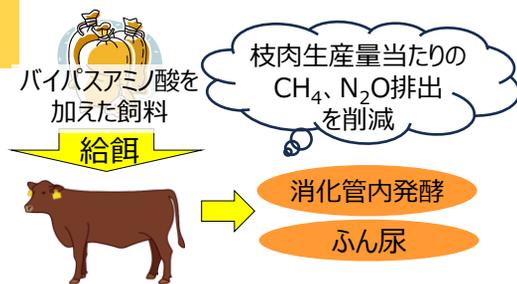
アミノ酸バランス改善飼料の給与

- ▶ 家畜排せつ物から排出される一酸化二窒素を削減します。



肉用牛へのバイパスアミノ酸の給与

- ▶ アミノ酸を効率良く吸収させることにより、枝肉生産量当たりのメタン、一酸化二窒素の排出を削減します。



家畜排せつ物の管理方法の変更

- ▶ 家畜排せつ物を強制発酵させることなどにより、メタン、一酸化二窒素の排出を削減します。



GHG削減に資する飼料添加物※の給与

- ▶ 家畜の消化管から排出されるメタンを削減します。

※ GHG削減効果や安全性が認められた「3-ニトロオキシプロパノール（3NOP）」及び「カシューナッツ殻液」が活用できます。



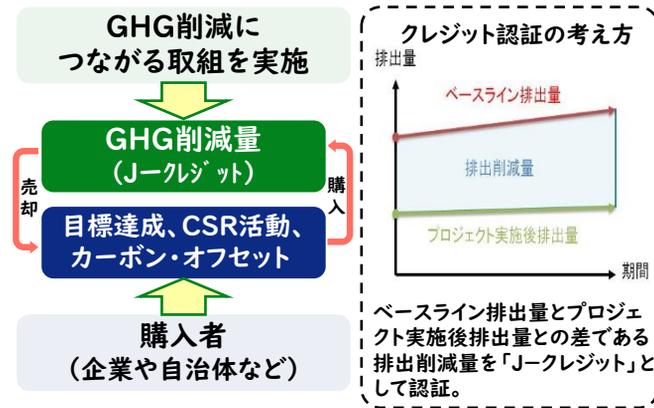
活用できる制度は裏面をご確認ください

活用できる制度等

GHG削減の取組には、以下の制度等が活用できます。

J-クレジット制度

国がGHG削減量をクレジットとして認証し、取引を可能とする制度です。畜産農家もクレジットの販売により収入が得られます。



個別の削減活動を取りまとめて1つのプロジェクトとして登録できる「プログラム型」の活用が効果的です。

「プログラム型」を今すぐチェック！



みどり認定

「みどりの食料システム法」に基づき、GHG削減の取組の認定※を受けると、必要な投資への低利融資や、国庫補助事業での優先採択等のメリットがあるほか、生産物の消費者へのPRにもつながります。

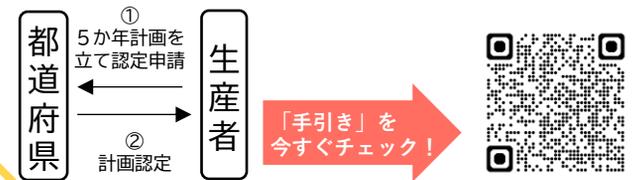
※ 表面の取組のほか、早期出荷なども認定対象になります。

<認定事例>

- ✓ アミノ酸バランス改善飼料を肉用牛に給餌し、家畜排せつ物由来のGHGを削減。
- ✓ 「地球にやさしいお肉」としてブランド化。



都道府県に申請して認定を受けられます。詳しくは以下の「認定の手引き」をご参考ください。



グリーンな飼養体系加速化事業

(令和7年度補正予算、令和8年度予算概算決定)

環境にやさしい飼養技術を取り入れたグリーンな飼養体系の検証、飼養マニュアル・産地戦略の作成を支援します。

<本事業における環境にやさしい飼養技術>

- ✓ アミノ酸バランス改善飼料の給与
- ✓ 牛のゲップ抑制に資する飼料添加物の給与
- ✓ 肉用牛へのバイパスアミノ酸の給与



<交付対象経費>

検討会開催等に要する費用や試験用飼料代、試験協力費、血液分析費、獣医師等謝金、研修会開催費など。(定額: 交付上限300万円/地区)

<取組主体>

協議会、都道府県、市町村、JA

※いずれの場合も産地の農業者の参加が必須です

最新情報を今すぐチェック！



環境負荷低減の取組の「見える化」

(本年度中の運用開始を目指して現在検討中)

生産に関するGHGの排出と吸収を定量的に算定し、削減への貢献の度合いに応じ星の数で分かりやすくラベル表示できます。

農産物で先行して運用中ですが、畜産物でも、本年度中の運用開始を目指しており、環境負荷低減の取組の「見える化」を推進していきます。



見る × 選べる
≡
みえるらべる

店頭ポップに「みえるらべる」を提示して販売されるなど活用が進んでいます。



お問合せ先

東北農政局 生産部 畜産課 TEL: 022-263-1111 (内線4543)

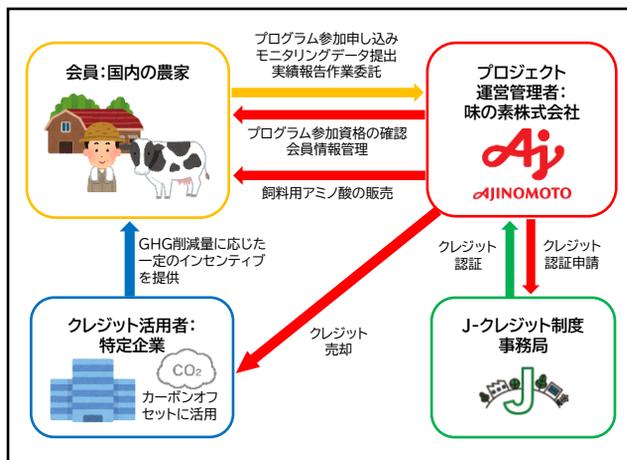
あなたのeatが地球のeコトに

乳牛へのアミノ酸バランス改善飼料の給餌プロジェクト

運営管理者名：味の素株式会社

プロジェクトの概要

対象畜種	乳用牛
対象地域	全国
削減手法	乳用牛へ慣用飼料に代えてアミノ酸バランス改善飼料を給餌することにより、排せつ物管理から温室効果ガス(GHG)排出量を削減する。 (方法論:AG-001)



プロジェクトの特徴

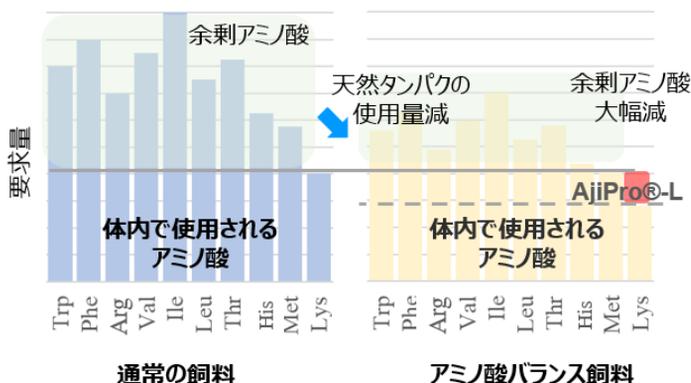
一般的に乳用牛向けの飼料として使用される大豆かすなどの天然タンパク源は、高タンパクながら余分なアミノ酸も多く含まれ、牛の体内で生乳の生産に使用されなかったアミノ酸は窒素として糞尿中に排出されて一酸化二窒素などのGHG発生原因になります。

当プロジェクトは、飼料中の天然タンパク源を減らし、バイパスアミノ酸(牛用リジン製剤・「AjiPro®-L」など)を加えたアミノ酸バランス改善飼料を乳用牛に給餌することで、乳用牛の生産性を維持しながら糞尿からのGHG排出量と飼料コストの両方を削減することができます。

また、本取組みを通じて削減されたGHGをクレジット化し、活動実施者である農家にインセンティブとして還元します。GHG削減量の算定にあたっては、参加農家のプロジェクト実施前後の生産記録などを書類・写真などを確認してモニタリングします。

【モニタリングに使用するデータ】

1. プロジェクト実施前の飼料設計・プロジェクト実施前1年以上の給餌量
2. プロジェクト実施後の飼料設計・給餌量・飼養頭数
3. 排泄物管理方法に関する資料
4. 給餌対象の家畜が乳用牛であることが確認できる生産記録



プロジェクトに関するお問い合わせ先

味の素株式会社 バイオ&ファインケミカル事業本部 CFS事業部
 所在地:〒104-8315 東京都中央区京橋一丁目15番1号
 メール:aji_ajipro@asv.ajinomoto.com

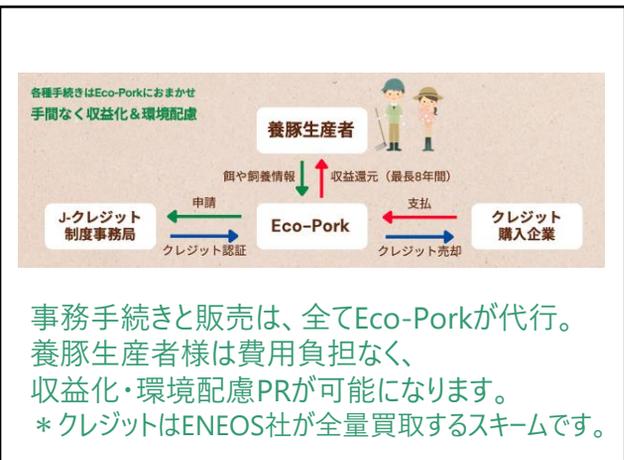
畜産分野におけるJ-クレジット制度のプロジェクトを紹介します！

豚へのアミノ酸バランス改善飼料の給餌プロジェクト

運営管理者名：株式会社Eco-Pork

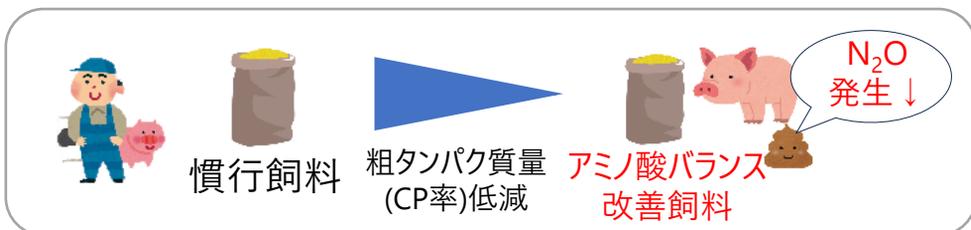
プロジェクトの概要

対象畜種	豚
対象地域	全国
削減手法	【豚へのアミノ酸バランス改善飼料の給餌】 慣用飼料に代えてアミノ酸バランス改善飼料を給餌することにより、排せつ物管理からN ₂ O排出量を削減する (方法論:AG-001)



プロジェクトの特徴

過去2年以内、もしくはこれからの飼料変更でCP(粗タンパク質)率が1-3%下がった場合、プロジェクトの対象となります。



アミノ酸バランス飼料に変更
(CP率が下がる)

↓
糞尿内の未消化アミノ酸が減る

↓
アミノ酸から間接的に発生していた
一酸化二窒素(N₂O)も減る

* N₂Oの地球温暖化係数は、CO₂の265倍

参画農家 (一例)

キシシマドリームファーム

宮崎県都城市の大規模黒豚農場。専用飼料で育成したブランド豚「霧島黒豚」を展開。DXに積極的に取り組み、業務効率の向上を推進。



霧島黒豚のふとんは、九州産豚肉

上原ファーム

宮崎県都城市に本社を構え、年間約15万頭の豚を生産。豚の育種から加工までを一貫管理し、「くりふ豚」などのブランドを展開。



プロジェクトに関するお問い合わせ先

株式会社Eco-Pork

所在地：〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21-7

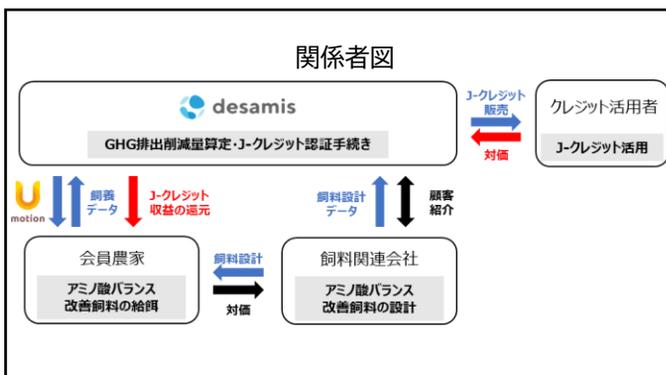
電話番号：080-9945-1129

クラウドデータを活用した乳用牛及び肉用牛の栄養バランス改善飼料の給餌プロジェクト

運営管理者名：デザミス株式会社

プロジェクトの概要

対象畜種	乳用牛・肉用牛
対象地域	全国
削減手法	<p>【牛へのアミノ酸バランス改善飼料の給餌】</p> <p>乳用牛・肉用牛へ慣用飼料に代えてアミノ酸バランス改善飼料を給餌することにより、N2O排出量を削減します。モニタリングに必要なデータに関しては、U-motionで管理を行うことができます。</p> <p>(方法論:AG-001)</p>



プロジェクトの特徴



★特徴★

- ・乳用牛・肉用牛対応可能
- ・牛の健康管理にも活用可能
- ・クレジット認証に必要なデータは **U-motionで管理可能**

酪農テクニカルレポート 表示期間: 2024年 4月 ~ 2025年 4月 変更

	7	8	9	10	11
乳量	32.7kg	-	-	-	-
前年との差	-	-	-	-	-26.9
搾乳日数	1199	1226	1230	1249	1272
搾乳牛頭数	156	156.7	158.1	159.7	159.4
肥乳牛頭数	6	7	7	7.3	9
経産牛頭数	162	163.7	165.1	167	168.4
分娩頭数	1	3	4	4	3

台帳機能

アミノ酸バランス改善飼料を与えるだけで、その他の事務的作業や必要データに関しては、デザミスが全て管理しJ-クレジット認証まで行うことができます。ご興味がある方は下記お問い合わせ先までご連絡ください。

プロジェクトに関するお問い合わせ先

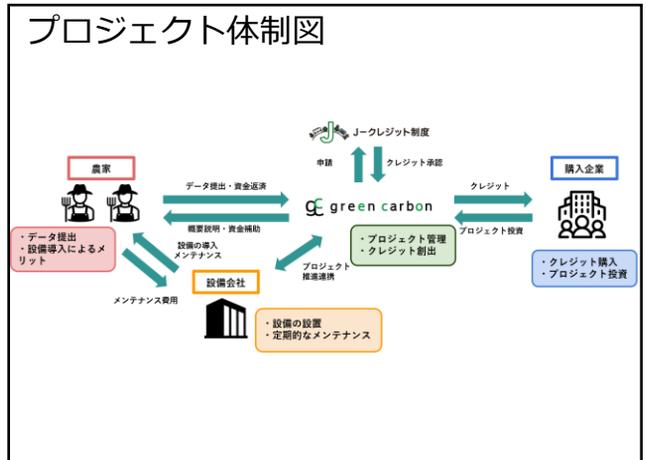
デザミス株式会社 経営企画本部
 所在地: 〒135-0064 東京都江東区青海2-7-4 the SOHO 417
 電話番号: 03-6380-7239
 Email: pr-r@desamis.co.jp

家畜排せつ物管理方法の変更によるCH4とN2Oの削減プロジェクト

運営管理者名：Green Carbon株式会社

プロジェクトの概要

対象畜種	乳牛・肉牛・豚・鶏
対象地域	全国
削減手法	<p>【家畜排せつ物管理方法の変更】</p> <p>家畜(乳牛・肉牛・豚・鶏)の排せつ物の管理方法を変更することで、CH4とN2Oの排出量を削減する。</p> <p>(方法論:AG-002)</p>



プロジェクトの特徴

本PJを推進するにあたり、ネイチャーベースコンソーシアムを立ち上げ、農家は申請費用なく楽にクレジット創出が可能。また、Green Carbon以外に様々な企業と連携することで、農家を立体的に支援できる体制を構築。家畜の排せつ物処理方法は、現在「堆積発酵」が一般的だが、それを設備の導入・バイオガス発電・放牧等、排出量の減少する様々な方法に対応。設備の導入や費用に支援もコンソーシアムを通して実施。

変更前の方法



堆積発酵による処理
(コンクリートの上に積み上げただけ)

【課題】

- ◆メタンガスの排出による地球温暖化問題
- ◆糞尿処理の際の悪臭
- ◆飼料価格高騰による経営状況の悪化

変更後の方法(例)

強制発酵施設



バイオガス発電



膨大な資料の収集 複雑な計算方式の読解

クレジット申請費用 審査対応
(最低でも200万) クレジット販売活動

ネイチャーベースコンソーシアム
green carbon 加盟企業様

クレジット申請だけでなく、
設備導入・酪農経営など多角的なサポート

※水田の取り組みでは稲作コンソーシアムとして
既に1000名以上、約40000haを管轄

プロジェクトに関するお問い合わせ先

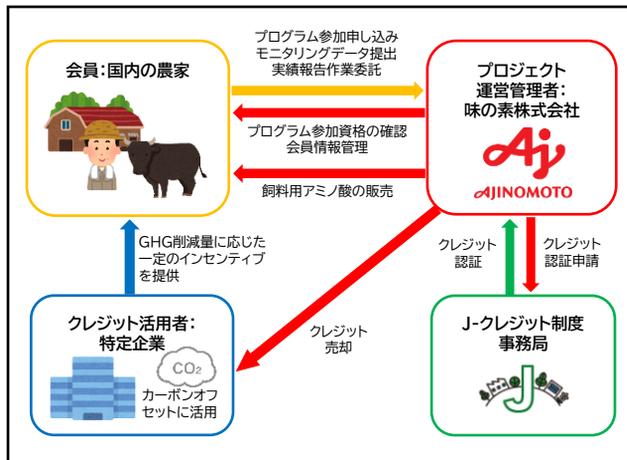
Green Carbon株式会社 国内事業部
 所在地:〒107-0052 東京都港区赤坂5丁目2-33 IsaI AKASAKA
 電話番号:080-7307-8962

肉用牛へのバイパスアミノ酸添加飼料およびアミノ酸バランス改善飼料の給餌プロジェクト

運営管理者名：味の素株式会社

プロジェクトの概要

対象畜種	肉用牛
対象地域	全国
削減手法	<p>①肉用牛へのバイパスアミノ酸添加飼料の給餌により、肉用牛の生産性が向上し、枝肉重量あたりの温室効果ガス(GHG)排出を抑制する。(方法論:AG-006)</p> <p>②肉用牛へ慣用飼料に代えてアミノ酸バランス改善飼料を給餌することにより、排せつ物管理からGHG排出量を削減する。(方法論:AG-001)</p> <p>※ ①と②の併用が可能</p>



プロジェクトの特徴

当プロジェクトでは、肥育段階の肉用牛の飼料にバイパスアミノ酸(牛用リジン製剤・「AjiPro®-L」など)を加えることで、体内で利用されるアミノ酸の量を増加させ、肉用牛の生産性を高めることが可能となります。

牛のげっふや糞尿からはメタンや一酸化二窒素などのGHGが発生しますが、本取組みによって肉用牛の肥育日数の短縮、もしくは従来と同じ期間肥育した場合の枝肉重量が増加し、単位重量あたりのメタンと一酸化二窒素の両方の削減、そして生産コストの削減が可能となります。

上記の方法に加えて、飼料中の余分な天然タンパク源を減らし、バイパスアミノ酸を活用してアミノ酸バランスを改善した飼料を給餌することで、向上した肉用牛の生産性を維持しながら、糞尿からのGHG排出量と飼料コストの両方を更に削減することができます。

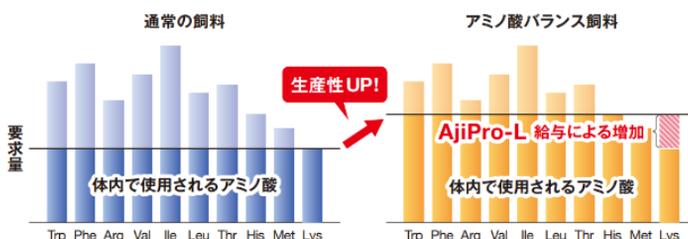
また、本取組みを通じて削減されたGHGをクレジット化し、活動実施者である農家にインセンティブとして還元します。GHG削減量の算定にあたっては、参加農家のプロジェクト実施前後の生産記録などを書類・写真などを活用してモニタリングします。

【モニタリングに使用するデータ (削減手法①の場合)】

1. プロジェクト実施前の飼料設計・給餌量・飼養頭数・飼養日数・枝肉重量
2. プロジェクト実施後の飼料設計・給餌量・飼養頭数・飼養日数・枝肉重量
3. 排泄物管理方法に関する資料
4. 給餌対象の家畜が肉用牛であることが確認できる生産記録

(削減手法① 生産性向上の概要)

リジン強化による生産性改善



プロジェクトに関するお問い合わせ先

味の素株式会社 バイオ&ファインケミカル事業本部 CFS事業部
 所在地:〒104-8315 東京都中央区京橋一丁目15番1号
 メール:aji_ajipro@asv.ajinomoto.com